

特集 2 JARTSの人材育成・マッチング事業への取り組みについて

第5回人材育成・マッチング委員会の開催 — 人材育成を今後のJARTSの担う役割の柱に —

一般社団法人海外鉄道技術協力協会 事業部

1 設置の背景・目的

2022年度、国土交通省鉄道局及びJARTSにおいて、関係企業、団体の皆様にお集まりいただき、「JARTSの将来像を考える検討会」を開催したところ、公益的な非営利団体であるJARTSの特性を踏まえ、今後とも、我が国の鉄道システムの海外展開を持続的に進めていくために、オールジャパンで取り組むべき事業として、JARTSにおいて人材育成・マッチング事業を行うべきとされた。

また、これらの事業は、国土交通省のインフラシステム海外展開行動計画（令和5年版）における「我が国企業の海外展開に係る人材の確保に向けた取組みの強化」の一翼を担うものである。

このため、2022年度に続き、関係企業、団体の皆様にお集まりいただき、「第1回 人材育成・マッチング委員会」（委員長:政策研究大学院大学 森地茂名誉教授）を2023年7月25日に開催し、人材育成事業及び人材マッチング事業の具体的な事業の設計に向けた議論を開始した。また、事務局では、鉄道事業者、車両メーカー、商社、コンサルタント、金融及び建設会社等28社からヒアリングを実施した。

第2回委員会では、経済産業省経済産業政策局 島津産業人材課長より「未来人材ビジョン」について、国土交通省鉄道局国際課 長谷川国際協力政策調整官より、「ポストコロナ時代における鉄道インフラ展開戦略」についてプレゼンを頂いた。両省による発表は、企業経営における人材育成の重要性、あるべき将来の人材像の方向性について、改めて確認すると共に、今後の海外鉄道インフラ展開戦略を踏まえて関係各所における人材面での取組みの必要

性を示唆するものであった。その後、事務局より(1)ヒアリング結果、(2)人材育成事業（案）、(3)人材マッチング事業（案）について報告した後、これらについて活発な意見交換が行われた。

その後、事務局において第2回委員会で報告した人材育成事業(案) 及び人材マッチング事業(案) について、関係企業・団体へヒアリング及びパブリックコメントを募ったうえで、両事業（案）の修正案の提示に向けた検討を行った。

第3回委員会では、「2023年度人材育成・マッチング委員会最終報告書(案)」について説明し、事務局の（株）野村総合研究所片桐シニア研究員より代表的な知識系講座の内容について、（株）TAO Partnersの大城代表取締役社長より演習系講座の研修内容及び手法の考え方（アンラーニング、経験学習、シミュレーションゲーム）について説明があった。また、第2回委員会後の関係企業・団体へのヒアリング及び会員企業向けパブリックコメントを反映した「人材育成事業（案）及び人材マッチング事業(案)」の提示と「2024年度の両事業の取り組み方針」を提示し、各委員による意見交換が行われた。

なお、2024年5月9日には、「第1回 運営・調整ワーキンググループ」を開始し、各講座について講師、教材及びそれに係る協力依頼先の議論、審議を行い、当該セッションの研修実施に向けての調整を行った。

第4回委員会は、2024年7月11日に実施し、(1)昨年度委員会の振り返り、(2)第1回運営・調整ワーキンググループ（セッション1・2）の報告、(3)人材育成プログラム「主要国の国際事情」について、(4)人材育成プログラム策定に向けた今年度の取り組み方針(案)、(5)人材交流・マッチング事業の取組

み状況について、(6)知識系講座の作成状況について、(7)演習系講座の作成状況について報告した後、これらについて活発な意見交換が行われた。

人材育成プログラム「主要国の国際事情」については、今後の海外鉄道インフラ展開について、特にターゲットとすべき国におけるローカル情報（現地法、商慣行、許認可・認証制度、会計等）を現地よりオンラインで発信してもらい、現地の生の情報を手に入れられる講座とすることとなった。講座の内容は、当該国のビジネス総論、当該国の鉄道概況、鉄道プロジェクトマーケット、現地実務の4講座とした。講師は、現地の大使館やJICA、JETRO、現地に進出しているメーカー等を想定している。

また、2024年9月19日には、「第2回 運営・調整ワーキンググループ」を開催し、主に3つの議題について議論を行った。まず、「人材交流・マッチングプログラムの進捗状況について」では、今年度試行している人材交流・マッチングプログラムの各案件についての調整状況を報告した。また、次年度以降、持続的なマッチングプログラムの構築を図るべく、人材を送り出す企業とのネットワーク構築に向けた取組み方針(案)について議論を行った。

次に、「知識系講座の作成状況について」では、担当する(株)野村総合研究所片桐シニア研究員より知識系講座の全体像を共有した後、作成内容サンプルを提示し、その内容に関して審議、議論を行った。

最後に、「演習系講座の体験」では、各演習系講座の目的・狙い、学習方法を説明した後、現在作成中の教材である「鉄道プロジェクトマネジメントシミュレーション」の体験を各委員にいただいた。体験中、実務を担当したことのあるメンバーからは、演習講座のリアリティについて好評をいただいた。

2024年12月26日には、「第3回 運営・調整ワーキンググループ」を開催し、第2回に引き続き、(1)人材交流・マッチングプログラムの進捗状況について、(2)知識系講座の作成状況について、(3)演習系講座の作成状況について、の進捗状況を共有した。また、演習講座については、「契約交渉ロールプレイ」を体験していただいた。

2 第5回委員会の実施

第5回委員会では、冒頭に志村理事長より、本委員会の趣旨を踏まえつつ、次のとおりご挨拶いただいた。

「これまでの間運営調整ワーキンググループでは、メンバーの皆さま方とプログラムの内容につきまして、ご議論ご調整をいただきました。また、日本鉄道システム輸出組合の村崎専務理事や私共の事務局である野村総合研究所の片桐様には、当協会のアドバイザーにご就任頂いて、それぞれ非常に主体的、積極的にお取り組みをいただきました。お陰様で2月にはJICA様との共催という形で人材育成プログラムを開催する運びとなり、プログラムを試行させていただけるところまでできたことを御礼申し上げます。

また、TAO Partners様の方には、このプログラムの1つのセールスポイントとしてゲーム性や競技性といった新しいやり方を取り入れた演習プログラムを作成していただきました。野心的でありながら科学的に効果が実証されていると聞いており、先進的な企業、国々、地域において取り入れている手法をプログラムの中に取り込んでおります。

人材交流・マッチング事業につきましては、海外鉄道インフラ展開に関する案件に関わる企業様に必要とされる人材の情報を提供できるようなインフラを今後、用意しておくということかなと思っております。皆様に少しずつ活用していただくなかで、海外鉄道関係の領域が拡大していくということになれば、この制度の価値も高まっていくと思っています。」

その後、事務局より(1)第2回及び第3回運営・調整ワーキンググループのご報告、(2)人材交流・マッチング事業の取り組み状況及び今後の進め方について(案)、(3)人材育成プログラムの調整状況等についてのご報告、(4)知識系講座の作成状況について、(5)演習系講座の作成状況について報告した後、これらについて活発な意見交換が行われた。(4.資料参照)

「人材交流・マッチング事業の取り組み状況及び今後の進め方について(案)」については、事務局

より今年度の人材交流・マッチング事業における進捗状況の報告を行った後、来年度以降の人材交流・マッチング事業の進め方について説明を行った。具

体的には、「JARTS人材マッチングプラットフォーム」を構築のうえ試行することを検討している。JARTS人材マッチングプラットフォームは、人材受

JARTS人材シニアフェロー就任にあたり

日本鉄道システム輸出組合 専務理事 村崎 勉



どんなことでも人材が重要であることに異論はないと思います。

元々、人材は具体的なプロジェクトに関わり七転八倒しなければ育たないと考えてもいます。私自身、大学で7年間流体力学と伝熱工学を、留学では国際関係論を専攻しましたが、経済産業省での3か月は大学での7年間以上の学びがありました。しかし、60歳を超えて今、AI×データへの関心がふくらみ、春からZEN大学でデータサイエンスとAIエンジニアリングの勉強をすることにしました。AI×データが生み出すさまざまな「いいね！」は想像もつくのですが、自然言語処理、機械学習、ディープラーニングなど入口で何をどうやっているのかちんぷんかんぷんです。

鉄道の海外展開が声高に叫ばれて久しいです。鉄道車両やシステムもさることながら、時間に正確、高密度大量輸送を実現している日本の鉄道輸送サービスこそが世界が羨むものです。しかし、鉄道にはローカル要素が多いですから、日本の鉄道輸送サービスを海外で再現するのは容易ではありません。「日本ではこうやっている」と説教しても嫌われるだけです。ローカルの特性、課題を正しく認識して、現地の人と一緒に考え、その地で最適のものを作り上げなければなりません。しかし、そこでは日本でやってきた経験、知識がやはり役に立つのです。

鉄道事業の運営だけでなく、鉄道システムを建設整備することでもやはり同じ苦勞が伴います。私が今本職にしている日本鉄道システム輸出組合では、その組合報（会報）で「歴史を作ったプロジェクト」という連載をしています。日立製作

所のイギリス進出、川崎重工業のニューヨーク地下鉄あるいはドバイメトロ、ジャカルタMRTなど名だたるプロジェクトの苦勞話が満載です。しかし、苦勞話のオンパレードは、数多の「やりがい」のご紹介でもあります。頼りにされ慕われる人材というのは、課題を正しく合理的に認識し、偏見に囚われず柔軟に考え、世界言語で自分の意見を伝えられる人だと思えます。

モノはいいモノを作れば売れる面もありますが、そこでも国際人材が必要であることに変わりはありません。昨年のイノトランスで日立レールのdigital asset managementには10年間の鉄道分野でのDXの成果がたくさんありました。説明するイギリス人の男の子、インド系の女の子、みんな顔が輝いていました。ローカルな課題を、国際性豊かなチームで、オープンな環境の中で考えると、スピード感をもってこういう成果が生み出されるのだなと思えました。

JARTSで2月に行う研修は、日本の鉄道運営や輸出車両の製造プロセス、あるいは、国際入札、貿易実務、事業リスクと財務分析など、鉄道の海外展開で基盤となる要素をコンパクトにそれぞれの全体像を紹介する構成です。プロジェクトマネージャーというのは、これらすべてを消化吸収し、自らの能力源泉としている方々のことです。この研修では、全体像を専門用語のつぎはぎにならず、なるほどな感を持って頭に残る工夫をしようと思ひます。一部関わった身としては自画自賛になってしまいますが、私自身も受講したい研修です。ご期待ください。

入企業がEPCやO&M、その他車両輸出など海外鉄道インフラ展開に係る求人情報を「JARTSジョブマッチングアプリ」に登録し、その情報を会員企業の人事担当者が閲覧できるようにする仕組みである。当該求人に対して、自社人材の送り出しに関心を示した送り出し企業は、JARTSにその旨の連絡を入れていただく。連絡を受けたJARTSは送り出し企業と受け入れ企業との連絡・調整を行い、マッチングを図ることを検討している。

また、送り出し企業においては、海外鉄道インフラ展開に係る求人に対する現役出向対象者や役職定年者等のシニア層をリスト化していただくことによ

り、当プラットフォームの活用を図ることを想定している。このため、当プラットフォームの有効性を検証すべく会員企業を対象としたアンケート調査を実施する予定である。

「人材育成プログラムの調整状況等についてのご報告」では、2月に実施の人材育成プログラムについて、募集対象者や当日各講座を担当する講師、参加企業について共有を行った。また、同プログラムは2/3（月）～2/7（金）に対面講義を実施した後、2/26（水）～2/28（金）においてイギリス国、フィリピン国、インドネシア国にフォーカスを当てたオンライン講座を実施する旨を共有した。内容は、各



第5回委員会の様子



森地委員長、小澤副委員長よりご意見を賜る

国のビジネス総論、当該国の鉄道概況、鉄道プロジェクトマーケット、現地実務の4講座である。講師は、JETRO、現地大使館及びJICA、現地に進出している鉄道会社やメーカーとなっている。(P38参照)

知識系講座の作成状況の報告では、(株)野村総合研究所の片桐シニア研究員より、「海外鉄道マーケット動向と日本企業の活動状況」、「海外の鉄道事業運営形態と参画への第一歩」「モビリティ分野のDX動向と施策動向」「海外都市開発と鉄道の関係・動向」といった各講座の内容について報告を行った。これに対し、委員長の森地教授より、自動運転や移動閉塞、ソフトウェアといった日本が遅れている現状を入れた方が良いとの意見があり、イタリア・ジェノバでのBluetoothを用いた運賃収受システムの事例について紹介があった。

演習系講座の作成状況の報告では、作成担当者である(株)TAO Partnersの大城代表取締役社長より、演習系科目のうち「鉄道プロジェクトマネジメントシミュレーション」「鉄道プロジェクトにおける提案演習」「契約交渉ロールプレイ」の設計方針、内容、ワーキングを経た変更点などについて報告を行った。

このほか、知識系講座及び演習系講座について、委員長の森地教授、副委員長の小澤教授をはじめとして各委員より疑問点や内容についての質疑応答が行われた。

3 委員会構成員名簿

【委員長（敬称略）】

森地 茂 政策研究大学院大学
名誉教授、客員教授

【副委員長（敬称略）】

小澤 一雅 政策研究大学院大学 教授

【委員（敬称略）】

小林 伸行 国土交通省鉄道局 国際課長
浅子 和則 東日本旅客鉄道株式会社
国際事業本部 企画・国際交流部門長

竹内 謙太郎 東海旅客鉄道株式会社
総合技術本部 海外高速鉄道プロジェクトC&C事業室 担当部長
下崎 正憲 西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部
イノベーション本部 国際事業室長
菊地原 宏之 日本貨物鉄道株式会社 鉄道ロジスティクス本部 海外事業部長
畑中 一浩 東京地下鉄株式会社 国際ビジネス部
国際渉外担当部長
勝山 潔 一般社団法人日本民営鉄道協会
常務理事
廣瀬 道雄 一般社団法人日本鉄道車輛工業会
専務理事
清水 健志 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備
支援機構 国際部 担当部長
山崎 輝 公益財団法人鉄道総合技術研究所 理事
村崎 勉 日本鉄道システム輸出組合 専務理事
志村 務 一般社団法人海外鉄道技術協力協会
理事長
興石 逸樹 一般社団法人海外鉄道技術協力協会
常務理事

【オブザーバー（敬称略）】

藤井 麻里 独立行政法人日本貿易振興機構
調査部長
眞田 明子 独立行政法人国際協力機構 社会基盤
部次長(兼)運輸交通グループ長

【事務局】

一般社団法人海外鉄道技術協力協会
株式会社野村総合研究所
株式会社TAO Partners

4 資料

運営・調整ワーキンググループについて



■ワーキング実施背景

- 2023年度より開始した「人材育成・マッチング委員会」では、海外鉄道技術協力協会が担うべき・期待される人材育成事業及び人材マッチング事業の具体的な方針・方策について、議論を重ね、2023年度の最終報告書を取りまとめた。その中で、人材育成事業についてはセッション1・2に相当する部分のプログラム(案)を策定した。
- 今般、この検討結果を踏まえ、委員会に出席の各社の中でも、特にセッション1・2に関わるメンバーにより少人数で講師、教材の調整を行う「運営・調整ワーキンググループ」を設置し、研修の実現するための審議・合意形成を図ろうとするものである。また、人材マッチング事業の進捗の報告等も行う。

■構成員

【メンバー】 (敬称略)

- 小林 伸行 国土交通省鉄道局 国際課長
- 浅子 和則 東日本旅客鉄道株式会社 国際事業本部 企画・国際交流部門長
- 竹内 謙太郎 東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部 海外高速鉄道プロジェクトC & C事業室 担当部長
- 下崎 正憲 西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部 イノベーション本部 国際事業室長
- 畑中 一浩 東京地下鉄株式会社 国際ビジネス部 国際渉外担当部長
- 村崎 勉 日本鉄道システム輸出組合 専務理事
- 藤井 麻里 独立行政法人日本貿易振興機構 調査部長
- 眞田 明子 独立行政法人国際協力機構 社会基盤部次長 (兼) 運輸交通グループ長
- 片桐 悠貴 株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 シニア研究員
- 大城 昭仁 株式会社TAO Partners 代表取締役社長
- 木村 直人 一般社団法人海外鉄道技術協力協会 事業部 人材交流・マッチング事業準備室長
- 下川 大志 一般社団法人海外鉄道技術協力協会 事業部 人材交流・マッチング事業準備室 主任

【進行・調整役】

- 志村 務 一般社団法人海外鉄道技術協力協会 理事長

【事務局】 株式会社野村総合研究所、株式会社TAO Partners、一般社団法人海外鉄道技術協力協会

第2回及び第3回運営・調整ワーキンググループの実施について

■第2回開催概要

日時：2024年9月19日（木）14：00～16：00

場所：一般社団法人海外鉄道技術協力協会 会議室

■第2回議題

- 1.人材交流・マッチングプログラムの進捗状況について
- 2.人材育成プログラムの参加予定企業及びセッション3について
- 3.知識系講座の作成状況について
- 4.演習系講座の作成状況について
- 5.演習講座「鉄道プロジェクトマネジメントシミュレーション」体験
- 6.意見交換

<第2回実施の様子>

↓意見交換時の様子



↑「鉄道プロジェクトマネジメントシミュレーション」体験では、EPC案件の工程の複雑さや予算、人的リソースの配分などをゲーム方式にて体感していただいた。また、メンバーより工程のリアルさについて高評価いただいた。

■第3回開催概要

日時：2024年12月26日（木）14：00～16：00

場所：一般社団法人海外鉄道技術協力協会 会議室

■第3回議題

- 1.人材交流・マッチングプログラムの進捗状況について
- 2.知識系講座の作成状況について
- 3.演習系講座の作成状況について
- 4.演習講座「契約交渉ロールプレイ」体験
- 5.意見交換

<第3回実施の様子>



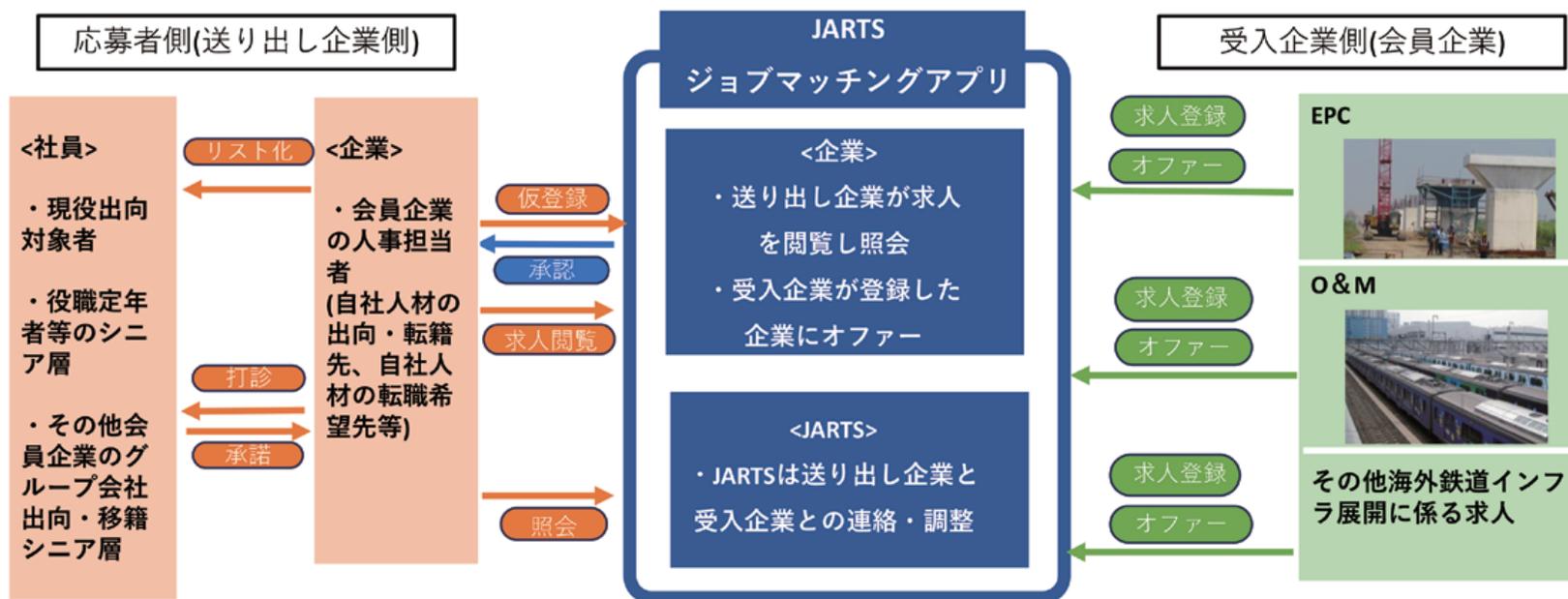
↑ →「契約交渉ロールプレイ」体験では、発注者の政府サイドと受注者のEPCサイドの2班に分かれて、工期の短縮についての妥協範囲の探り合いを体感していただいた。

JARTS人材マッチングプラットフォームの構築・試行について(案)



1.基本スキーム

以下の人材マッチングプラットフォームを整備・活用し、双方向での情報共有を図りつつ、JARTSが連絡・調整を行うことにより、効率的に実施する。



2.具体的な活用方針等

- (1) 会員企業において、海外案件の就業に関心がある人材に対しマッチングプラットフォームについて周知する。
(周知する人材の範囲は、各社の判断に委ねる)
 - (2) また、会員企業において、海外案件の就業に関心がある人材のリスト化を図ること等により、当該企業を通じプラットフォームの活用を図る。
 - (3) このため、会員企業を対象としたアンケート調査等を実施し、本プラットフォームの有効性を検証する。
 - (4) 将来的には、本プラットフォームを活用し、個人の会員企業OBを対象とした人材紹介事業を行うことを検討する。
- 注) これらの事業は、JARTSにおいて求職者の特定を行わず、雇用契約の内容に関与しない取扱いを行うことにより、有料職業紹介事業(「求人者と求職者との間における雇用関係の成立のあつせん」(職業安定法第4条第1項))の対象外となる。

2024年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 実施体制及び参加予定企業・団体



人材育成プログラム開催概要

- ・ 実施期間：2025年2月3日(月)～2月7日(金)
- ・ 開催場所：JICA市ヶ谷(東京都新宿区市谷本村町10-5)
- ・ 参加定員：30名前後

人材育成プログラム実施体制

- ・ 主催：一般社団法人海外鉄道技術協力協会
- ・ 共催：独立行政法人国際協力機構
- ・ 後援：国土交通省、経済産業省、一般社団法人日本鉄道車輛工業会
日本鉄道システム輸出組合

人材育成プログラム募集対象者

- ・ 海外鉄道インフラ展開に従事後概ね3年以内の管理職相当の者又はそれに準ずる者
- ・ 今回は試行のため、適切なフィードバックをいただきたい観点から管理職相当と記載しておりますが、1週間の連続した参加が難しい場合は、ご参加が可能な方を「それに準ずるもの」として参加いただくことも可。

参加予定企業・団体(全33社・団体) ※2025年1月20日時点 (順不同)

業種	会社名・団体名
鉄道会社	JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州、JR貨物、東京メトロ、東急電鉄、阪急電鉄
車両メーカー	日立製作所、川崎車両、三菱重工、日本車輛製造、総合車両製作所、近畿車輛
機器メーカー	日本信号、京三製作所、大同キャストリングス、菅沼製作所
コンサルタント、建設会社	オリエンタルコンサルタンツグローバル、日本コンサルタンツ、日本工営、鉄建建設
商社	住友商事、三井物産、伊藤忠商事、三菱商事、双日、JR東日本商事
国及び独立行政法人等	国土交通省、経済産業省、国際協力機構(JICA)、鉄道・運輸機構(JRTT)、海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)

2024年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」実施スケジュール



セッション①② (要説編+スキル実践編)

凡例： 知 座学・知識中心 演 演習・ワーク中心

	講座・演習等	所要	講師
■2月3日(月)			
		7.0h	
AM	キートン・スピーチ 知	0.5h	森地先生
	我が国の国際外交戦略 知	1.0h	外務省
PM	海外インフラ・プラント輸出戦略 知	1.0h	経済産業省
	鉄道インフラの海外展開 知	1.0h	国土交通省
	我が国のODA戦略と円借款事業の課題 知	1.0h	JICA
	日本貿易振興機構の取組み 知	0.5h	JETRO
	ネットワーキングイベント 演	2h	
■2月4日(火)			
		7.5h	
A	アイスブレイキング (自己紹介、マインドセット) 演	0.5h	TAO
M	海外鉄道マーケット動向と日本企業の活動状況 知	1.5h	NRI
P M	海外の鉄道事業運営形態と参画への第一歩 知	1h	NRI
	日本の鉄道運営(O&M) 知	1h	JR東日本
	鉄道プロジェクトマネジメントシミュレーション 演	3.5h	TAO・OCG
■2月5日(水)			
		7.5h	
AM	海外納品における車両製造マネジメント 知	1h	LTM
	国際入札プロセス 知	1h	OCG
P M	モビリティ分野のDX動向と施策動向 知	1h	NRI
	海外都市開発と鉄道の関係・動向 知	1h	NRI
	ワーク説明・自社参入機会検討ワーク時間 演	2h	NRI
	ワーク説明・自社参入機会検討ワーク時間 演	1.5h	NRI

	講座・演習等	所要	講師
■2月6日(木)			
		6h	
AM	鉄道プロジェクトにおける提案演習 演	2h	TAO・OCG
PM	鉄道プロジェクトにおける貿易実務 知	1h	(株) マウンハー フジャパン
	鉄道プロジェクトにおける事業リスクと財務分析 知 演	3h	三井物産オルタ ナティブインベスト メンツ (株)・ TAO
■2月7日(金)			
		7.5h	
AM	契約交渉ロールプレイ 演	2h	TAO・OCG
PM	日本の特殊性からアプローチする異文化理解 演	2h	TAO
	最終ラップアップ 演	1.5h	NRI
	ネットワーキング交流会 演	2h	

オンラインで開講。受講生は聴講を希望する国を選択して受講

2/26(水) 18時～	イギリス国の事情 (ビジネス総論、 鉄道概況、鉄道プロジェクトマーケット、現地実務) 知	2.5h	JETRO、大使館、 Hitachi Rail
2/27(木) 13時半～	フィリピン国の事情 (ビジネス総論、 鉄道概況、鉄道プロジェクトマーケット、現地実務) 知	3.5h	JETRO、大使館、 JICA、東京メトロ
2/28(金) 14時半～	インドネシア国の事情 (ビジネス総論、 鉄道概況、鉄道プロジェクトマーケット、現地実務) 知	3.5h	JETRO、大使館、 JICA、PT.KCI

注) NRI:(株)野村総合研究所 OCG:(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル
TAO:(株)TAO Partners LTM:LTMソリューションズ(株) PT.KCI:インドネシア通勤鉄道会社

2024年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 実施時間割



セッション①② (要説編+スキル実践編)					
h	2/3(月)	2/4(火)	2/5(水)	2/6(木)	2/7(金)
0900-					
1000-	安富会長挨拶・事務連絡 キノートスピーチ(森地先生)	アイスブレイキング 鉄道マーケット動向と日本 企業活動状況(10:40～ 12:00)	海外納品における車両製 造マネジメント (9:50～10:50)	提案演習 (10:00～12:00)	契約交渉ロールプレイ (10:00～12:00)
1100-	我が国の外交戦略 (11:00～12:00)		国際入札プロセス (11:00～12:00)		
1200-					
1300-	海外インフラプラント輸出 (13:00～14:00)	鉄道事業運営形態 と参画(13:00～14:00)	モビリティ分野のDX動向 (13:00～13:50)	貿易実務 (13:00～14:00)	日本の特殊性から アプローチする 異文化理解 (13:00～15:00)
1400-	海外鉄道インフラ展開 (14:10～15:10)	日本の鉄道運営 (14:10～15:10)	海外都市開発と鉄道 (14:00～14:50)	鉄道プロジェクトにおける 事業リスクと財務分析 (14:15～17:00) 演習含む	最終ラップアップ (15:10～16:40) 閉講式
1500-	ODA戦略と円借款事業 の課題(15:20～16:20)	鉄道プロジェクト マネジメント シミュレーション (15:25～18:50)	参入検討ワーク説明～ グループ討議～結果発表		
1600-	JETROの取組(16:30～)		説明：15:10-15:20 討議：15:40-17:00 (グループ討議中、適宜休憩) 発表：17:00-18:30		
1700-	ネットワーキングイベント (17:10～18:30)				ネットワーキング交流会 (17:00～18:30)
1800-					